

厚生労働省のHPを見ると、ワクチン接種後にごく稀に心筋炎や心膜炎になるが、軽症の場合が多く、ワクチンメリットが勝る、と書かれています。果たしてそれは本当でしょうか。慶応大学放射線医学教室が令和5年9月に「無症候性ワクチン後心筋炎をPET/CTで評価する」という論文を発表しました。このPET/CTというのは、炎症部分を特定する検査のことで、

Vol.194

院長 関の

Face to Face

2024年8月1日発行

# 接種後の無症候性心筋炎

約九千五百人に行われ、そのうち条件の揃ったワクチン（1回もしくは2回）接種者約七百人と非接種者約三百人を約一年五ヶ月比較したところ、接種者の炎症が百八十日間優位に高いことがわかりました。つまり、接種者の中に、およそ半年は無自覚のまま心臓が炎症を起こしていた人がいる：ということになります。心筋炎は心臓の壊死ですから炎症がおきてしまうとそこは修復できません。



治療としてはなるべく早く発見し、心臓の負担を減らし、炎症を抑え、壊死が広がらないようにしなければなりません。心筋炎の症状としては息切れや息苦しさ、むくみ、胸の痛み、動悸、不整脈、疲労感などが中心ですが、肩こりがひどい、肩が痛い、腕が拳がりにくいなどの症状で、調べたら心筋炎という例も増えているそうです。心筋炎を放置すると、炎症が広がり、機能の低下が起こり、全身症状に広がりが命に関わる危険性があります。次々に出てくるワクチンの副作用、真剣に向き合う時が来ています。

◇ 関 修一（せきしゅういち）

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院・マツサージ院 院長

代替医療の総合治療院としての

確立を目指す。タイトルのFace

to Faceは「患者さん自身と向き

合って患者さんの症状と闘う」こ

とを願ってつけた

※毎月一日の発行です